# 卓越大学院プログラム

令和2年度要求・要望額　145億円
(前年度予算額　74億円)

文部科学省

資料4－2
中央教育審議会大学分科会
大学院部会（第95回）R1.9.19

## 背景・課題

◆ 第4次産業革命の推進、Society5.0の実現に向け、学術プレゼンスの向上、新産業の創出、イノベーションの推進等を担う様々な分野で活躍する高度な博士人材（知のプロフェッショナル）の育成が重要

◆ 優秀な若者が産業界・研究機関等の教育に参画し、多様な視点を養うことが重要であり、機関の枠を超えた連携による高度な大学院教育の展開が重要

◆ また、優秀な日本人の若者が博士課程に進学せず、将来において国際競争力の地盤沈下をもたらしかねない状況に対応する必要

## 事業概要

**【目的】**◆ 各大学が自身の強みを核に、**海外トップ大学や民間企業等の外部機関と組織的な連携を図り、世界最高水準の教育・研究力を結集した5年一貫の博士課程学位プログラムを構築**

- **それぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材の育成**
- **人材育成・交流、共同研究の創出が持続的に展開される卓越した拠点の形成**

**【対象領域】**
- 国際的優位性、卓越性を有する領域
- 文理融合、学際、新領域
- 新産業の創出に資する領域
- 世界の学術の多様性確保への貢献が期待される領域

・各大学が養成する具体的な人材像を連携機関と共有し、4領域を組み合わせてプログラムを構築

・プログラム構築に当たっては、大学本部の強力なコミットメントを通じ、大学が総力を挙げて取り組む → 大学院改革につなげる

— 事業期間：７年間　財政支援（2018年度～2026年度）

※４年目の評価において個別プログラムの評価に加え、事業全体としての評価も行い、８年目以降の取り扱いについて検討

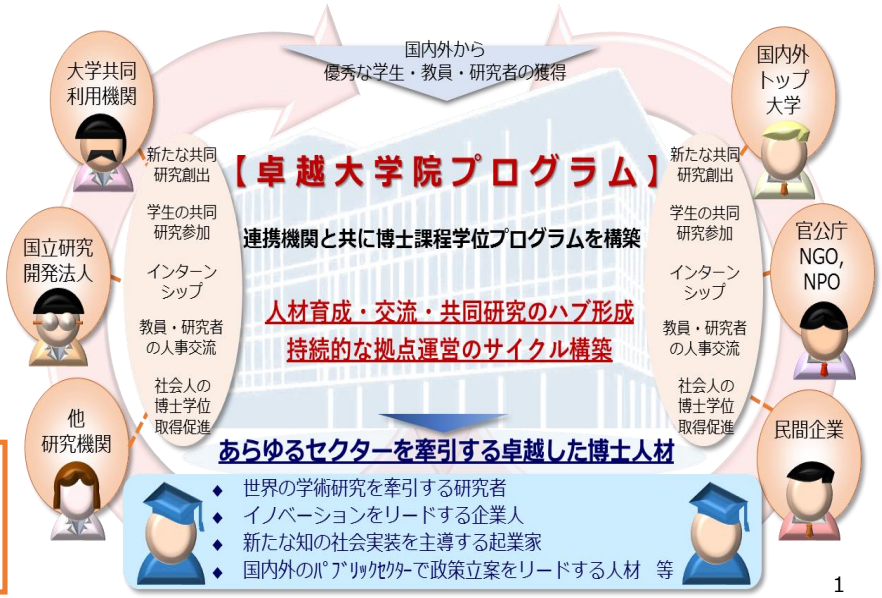
— 件数・単価（積算上）：2018年度採択【継続】（15件×約2.4億円）
2019年度採択【継続】（ 8件×約3.1億円）（※予定）
2020年度採択【新規】（15件×約5.5億円）

**【事業スキーム】**

◇対象：博士課程が設置されている国公私立大学

◇成果検証：・毎年度の進捗状況等のﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ、事業開始4年目・7年目に評価を実施
※総じて当初の計画を下回るものは支援を打ち切り
・事業終了後10年間はﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ修了者の追跡調査を実施

◇学内外資源の活用：事業の継続性・発展性の確保のため、事業の進捗に合わせて補助金額を逓減（４年度目は補助金額と同程度の学内外資源を確保し、７年度目には補助金額が初年度の１／３に逓減）
→各大学は、初年度から企業等からの外部資金をはじめとする一定の学内外資源を活用するとともに、事業の進捗に合わせ学内外資源を増加




## 事業成果

・あらゆるセクターを牽引する卓越した博士人材の育成
・持続的に人材育成・交流及び新たな共同研究が持続的に展開される拠点創出
→ **大学院全体の改革の推進**

# 人文・社会科学系大学院リカレント機能高度化プログラム

**令和2年度要求・要望額：300百万円（新規）**

文部科学省

## 背　景

◆ Society5.0等の実現のため、特に2025年から2030年にかけて、社会の主軸となるのは現在、社会で活躍している人材であり、**産業界と連携した大学院でのリカレント教育プログラムの拡充が急務**（ジョブ型採用を含む複線的なシステムへの段階的移行、大学院卒賃金プレミアムの拡大傾向　等）

◆ 特に、経済発展と社会的課題の解決を両立するSociety5.0時代には、**人文・社会系大学院でこそ身に付く普遍的なスキル・リテラシーや幅広い能力**が強く求められ、人文・社会系大学院に対する社会のニーズが大きくなることが予想される（大学進学者のおよそ半数は人文・社会科学系の学部に入学しているが、その多くは卒業時に就職しており、今後、大学院でのリカレント教育ニーズは高まる）

**経済財政運営と改革の基本方針2019（抜粋）**

社会人・女性・高齢者等の多様なニーズに対応して大学や専修学校等のリカレント教育を拡大する。このため、大学・大学院等において、産業界との連携・接続を強化し、人文社会科学系も含めた幅広い分野の教育プログラムを構築し、社会人が学び直す機会を拡充するとともに、戦略的な広報の実施等により、2019年10月から拡充される教育訓練給付の活用を進め、3年以内に教育訓練給付受給者の倍増を目指す。

## 現状・課題

【人文・社会科学系の課題】

◆ 修士、博士のいずれの学位についても、諸外国に比べて**人文・社会科学分野の学位取得者の割合が極端に低い**

◆ 体系的・組織的な教育に取り組む専攻が少ない
→**狭い学問体系に偏った**大学院教育

◆ 教員と学生の関係が限定的・固定的で教育内容や修了者のキャリアパスが社会から見えづらい

◆ 人文・社会科学系における**産学連携枠組み・ノウハウの不備**

【リカレント教育の課題】

◆ 社会人がプログラムを受講する上での**時間・空間的障壁**

◆ **実践的な教育プログラムが提供されていない**

◆ リカレント教育の重要性を認識しているが、**専門的な知見等の教育資源を十分活用できていない**

## 事業概要

【内容】

◆　産業界、地方公共団体等との連携体制の下、養成する具体的な人材像を共有し、**高度な実践的社会人リカレント教育プログラム**の構築・実施

・産業界と協同での教育プログラムの開発・実施
（企業人メンター、実務家教員の活用）

・様々な職業を担う上で必要となる高度かつ広範な専門的能力と高度の汎用的能力の育成

※最先端の知にアクセスできる能力、社会的・経済的価値を判断する能力、グローバル化に対応したコミュニケーション能力、STEAM分野の基礎的な知識やデータサイエンスの知識　等

・履修証明プログラム等を活用した複数専攻・研究科に跨る体系的なコースワークの実施

・科目等履修から正規入学、**学位取得までの一連のプログラム**
（夜間・土日開講、履修証明プログラムの活用等）

【対象】

◆　人文・社会科学系大学院を有する大学（修士課程）

【事業期間、件数・単価】

◆　事業期間：３年間
選定件数・単価：10件×30,000千円

## 事業成果

◆　産学連携による実践的社会人リカレント教育の実施を通じて、人文・社会科学系の高度な知識が社会で活用されるための好循環を加速

◆　従来の学問分野に基づく組織に着目した大学院教育からの脱却を図るとともに、**人文・社会科学系大学院における大胆な教育課程や組織の見直し**を促進

◆　**社会人（産業界）のニーズに見合う充実したプログラム**（“売れる”授業科目（群）・コマ作り）を促進し、大学の財政基盤の強化を図る

◆　教育内容・事業運営の両方の観点から、**人文・社会系大学院がリカレント教育プログラムを提供するモデル**の提示とその波及